

..... 編集後記

◆地質調査所の近くにイチョウの並木があり、銀杏が拾えます。先日、友達から貰った銀杏を電子レンジで焼いて食べましたが、ヒスイ色の実に秋を感じました。ところで、イチョウの木には雄と雌があるのをご存じですか。雄の木はほっそりとして枝を上方に伸ばし、雌の木は枝を横に張ると聞いています。今年は銀杏の葉の色づきが遅いようで、山の紅葉も遅いと報じられていますが、皆さんの所はどうですか。

◆甲信越地質情報展の打ち合わせに台風が来るのが判っていて、無謀にも車で長野県に出かけました。もっとも、運転免許を持たない私はいつものことながら荷物と同じ存在でドライバー役に命を預け放しました。強風に車をあおられながら台風の前面域を突切って台風をかわしたのですが、高速道路は土砂崩れで交通止めのため碓氷峠越えに向かいましたが、これも交通止め、妙義山の所で二時間の足止めということになりました。このお陰で初めて見る妙義山の奇岩からなる異様な山容をじっくりと観察できました。この山は安山岩から構成されているとのこと、500万年も経つとこのようになるのかと自然の驚異に驚かされました。

昭和30年代前半の地質ニュースには「車窓展望」という記事があり、列車の旅で見られる風景に簡単な地質的説明がされています。高速道路沿いの地質

展望の記事があれば交通渋滞も楽しくなるのではないかと今回の台風で思いました。もっとも、運転している人はそれどころではないかも知れませんが。

◆さて、今月号は東欧諸国の地質と鉱物資源を特集してお送りします。これらの諸国において資源開発にともなう環境問題が顕在化しているとのこと。我が国においても田中正造の直訴事件で有名な足尾銅山など、鉱物資源の開発と環境問題の対立がありました。この問題の原点は、人類が獲得した地殻中の少量の有用鉱物を濃集する技術は工業を飛躍的に発展させましたが、同時に生命体の存続を脅かすほどの重金属濃集を地表に導き出したことにあるでしょう。

◆先日、中国に行ってきましたが、山東半島全体が煤煙で覆われ、石炭のにおいがしていました。明け方の太陽は光がなく夕日のようなものであったように、急速な発展を望む中国では環境問題は後事的なものようです。生活の利便成果が生命体の存続かの問題に対して、環境問題と調和した資源開発をどのように模索して行くかが21世紀の最大の課題ではないかと思えます。

これまで地質屋は資源開発側で精力を注いできましたが、この問題に我々がどのように関与するかを皆で冷静に考えて見ましょう。 (有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係（谷田部信郎・吉田明弘）

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第530号	1998年	10月号
	定価¥785 (本体価格¥748)	〒実費	
1998年10月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 (代表)		
	Fax. (03) 3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 ケイ・トウ・ワン		

© 1998 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。